

第35回 日本神経科学大会サテライトシンポジウム

発達障がい その今と未来を考える

- 自閉症スペクトラム障がいとは？
- 原因は何？
- どう接したらいいの？

入場無料 定員300名様
先着順・要申込

講演
1

自閉症スペクトラム障がい (広汎性発達障がい) の診断: その現状と課題

講演者 名古屋大学大学院医学系研究科
親と子どもの心療学分野 講師

岡田 俊



講演
2

自閉症スペクトラム障がいについて
わかっていること
今後わかる必要があること

講演者 名古屋大学大学院医学系研究科
精神医学・親と子どもの心療学分野 教授

尾崎 紀夫



講演
3

今、家族ができること、気をつけたいこと
家庭でできる幼児への対応について

講演者 自然科学研究機構生理学研究所 研究員

穴戸恵美子



討論

診断と対応、および福祉について

司会/自然科学研究機構生理学研究所 生体情報研究系 神経シグナル研究部門

井本 敬二 教授
穴戸恵美子 研究員

2012年

9月16日 日

午後1時30分～4時

場所 名古屋大学病院 中央診療棟講堂

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地

定員 300名様 (6月24日 申込開始、先着順) **要申込**

対象 発達障がいのある子どもの家族、福祉・教育関係者、医療関係者
※未就学児の入場はできません。

*申込方法、会場へのご案内は裏面をご覧ください。

名古屋大学大学院医学系研究科
親と子どもの心療学分野 講師

岡田 俊



京都大学医学部卒業。同大学医学部附属病院精神科へ入局。同大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)博士課程を経て、同医学部附属病院精神科神経科、デイケア診療部の助教、院内講師、同大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)講師。児童外来、チック外来を担当。2011年4月より現職。医学博士、臨床心理士。

Society for Neuroscience (Regular Member)、日本精神神経学会(正会員)、日本児童青年精神医学会(正会員および編集参与、薬物療法に関する検討委員会委員)、日本生物学的精神医学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本精神科診断学会、日本うつ病学会(以上、正会員)、日本AD/HD学会(理事)。

京都市立北総合支援学校・白河総合支援学校学校医、京都市子育て支援総合センターこどもみらい館相談指導者、南山城学園診療所非常勤医師をつとめる。著書:もしかして、うちの子、発達障害かも(PHP出版、2009年)、ADHDの薬物療法と心理社会的治療(星和書店、2011年)、青春期精神医学(診断と治療社、2010年) text精神医学 第4版(南山堂、2012年)など多数。

名古屋大学大学院医学系研究科
精神医学・親と子どもの心療学分野 教授

尾崎紀夫



名古屋大学医学部卒業、医学博士。National Institute of Mental Health、Visiting Fellow、藤田保健衛生大学医学部講師、同教授などを経て、2003年より現職。名古屋大学医学部の精神科ユニット科長。

精神科ユニットは、診療部門が精神科と親と子どもの心療部(児童精神科)、大学院研究部門が精神医学、精神生物学、発達・老年精神学、親と子どもの心療学の各部門に分かれており、各診療科、各研究分野は診療・教育・研究面で、子どもから老年まで、心から脳、ゲノムまで広範な精神医学的問題に対応することを目指しています。かつての精神医学は「心か?脳か?」、「遺伝か?環境か?」といった発想で進められていましたが、今では、「心と脳」、「遺伝と環境」の相互関係を踏まえ、全体を捉えることが、臨床面でも研究面でも必要になっています。この様な状況を踏まえ、各診療科、各研究分野は各々の専門性を大事にしつつ臨床・教育・研究面で協力しあって、全体が精神科ユニットとして活動しています。

著書:標準精神医学 第5版(医学書院 2012年)、気分障害(医学書院 2008年)、うつ病リワークプログラムのはじめ方(弘文堂 2009年)、臨床精神薬理学テキスト(星和書店 2006年)以上すべて共著。共同編集 精神神経薬理学大事典(西村書店 2009年)。

自然科学研究機構生理学研究所
研究員

穴戸恵美子



東京大学理学部生物化学卒業、同大学院にて博士課程修了。理学博士。

日本行動科学学会、日本行動療法学会、日本応用行動分析学会、日本発達心理学会。

平成6年より日本学術振興会特別研究員、基礎生物学研究所研究員、米国ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校リサーチ・サイエンティストなど。

男女3人の子どもを持つ母親でもあり、米国滞在中に第二子が自閉症のため行動介入を受ける。帰国後、NPO法人などを介して行動介入のペアレント・トレーニングを行う。日本フィットネス協会認定インストラクター、放送大学・大学院(人文科学系)単位取得。平成23年より日本学術振興会RPD。生理学研究所の研究員として広く行動介入の紹介をするとともに、基礎研究者としてモデル理論の作成をしています。

著書:「教えて、のぼす!発達障害をかかえた子ども」(少年写真新聞社、2011年)

公益市民団体あしたば
<http://ashitaba.at.webry.info/>

会場のご案内

※会場へは公共交通機関をご利用ください。

名古屋大学病院 中央診療棟講堂

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地



申込方法・お問い合わせ先

E-mailで必要事項をご記入の上、お申し込みください。なお、E-mailがご使用できない場合に限り、FAXまたはTELでも受け付けます。その際、下記の必要事項をお伝えください。

*6月24日から申込開始です。
*応募受付のご返信には2~3日のご猶予をいただきます。

■申込必要事項

①代表者氏名 ②参加人数 ③関心のあることがあれば、100字以内でご記入ください。なお、ご記入いただきましたも時間の関係ですべてにお答えすることができないことをあらかじめご了承ください。④FAXとTELでお申し込みの方は連絡先電話番号もお知らせください。

- E-mail nagoya@nips.ac.jp
- FAX 0564-59-5891
- TEL 0564-55-7803、7804



← 携帯からお申込の方は
こちらから。



1 階段を登り、病棟方面にお進みください。



2 看板に従い、病棟方面、次に夜間救急入り口方面へお進みください。



3 正面の自動ドアからお入りください。



4 エレベーターで3階へ出て、右手正面が講堂です。